平成28年10月26日(水)　8:45～9:30

第10回「学びの変革」委員会

出席者

校長(委員長)	○	教　頭	出張	総括事務長	○	主幹教諭	○
指導教諭	○	教務主任(総括責任者)	○	進路指導主事(中核教員)	○	実践推進リーダー	○
総務部長	○	1学年主任	○	2学年主任	○	3学年主任	○

1　校長から

・教育長との懇談内容についての説明

・課題発見・解決型の学習をどう展開していくか，言葉だけが踊っていないか，課題を明示しているか。それがぶれていると，発見も解決もできない。そこで，教科学習において，単元で扱う課題とは何か，どう展開していくか，この授業でどういう課題を解決していくのか，授業の目標・授業においての課題を明確にした指導案作りをしていく必要がある。

そのために，授業構成をしっかりしてしないといけない。決められた時間で完結できるよう，バックワードデザインによる授業設計を進める必要がある。

質疑　課題発見・解決学習という場合の「課題」とは，本時の学習課題という意味と区別することが必要なのではないか。

回答　授業の中で一つ一つのサブジェクトの高まりが，プロジェクト，イシューレベルになる。「課題」について生徒にわかりやすく説明する必要がある。

2　１年の総合的な学習の時間について

探究基礎：地域課題探究

（１）今後の流れの説明

フィールドワーク後の整理・分析と発表準備：３時間

発表：(ポスターセッション)：１時間（７分）　８つのブース

ポスターセッションにどういう意義があるかを明確にしておかないといけない。

ルーブリックを事前に準備する必要がある。(例：深まりの有無，主体的かどうか)

（２）内容面での意見

・生徒が発見し，解決する「課題」について，自分たちの解決方法は何か，イシューレベルでないといけないが，生徒の中で「課題」というのがはっきりしないのではないか。「課題」という用語の定義づけが必要である。

・評価に関して，成果物による評価になっているのではないか。情報整理・分析など，探究活動のそれぞれの場面で評価が必要なのではないか。

・生徒の自己評価表を積み重ね，それを見ながら教員が評価するのが現実的である。

3　中核教員研修（10 月 28 日）について

・年間評価計画を踏まえた実践に関する持参物を，フィールドワークのまとめとし，評価規準を添付することとする。

・資質・能力ベースにもとづく単元計画に関しては，公開研究授業ならびに互見授業で実践し，修正を加えることとする。